

加治区自治会の取り組み 中

前回に引き続き、加治区自治会の活動紹介を通して、自治会活動のあり方を考えていきます。

「案内人」田原市総代会地域コミュニティ研究会オプザーバー

鈴木誠さん（岐阜経済大学経済学部教授）



加治区自治会は、近隣の自治会の方から「行事が多くて大変だね」と言われることがあるそうです。今回は、それらの活動をご紹介します。今回は、これからの時代に必要とされる自治会活動、また、その目的や意義について検証します。



区民が植えた宮川の桜

「地域愛」の根っこは環境美化

加治区自治会は、旧農協支所を改装した自治会館・多目的ホール、コミュニティ広場、運動場、テニスコートなどの拠点施設と宮川の源流となる里山を所有し、これらを含む地域環境を住民総出で維持しています。

●山役・川役（河川美化）
年1回、全戸参加で自治会所有の山林と河川の整備を行います。

●道役（春と秋）
組ごとに全戸参加で、道路のごみ拾いと草刈り・枝払いを行います。

●環境整備作業（年5回）
役員と有志で、広場・里山などの草刈りや間伐作業を行い、女性参加者の料理で昼食を楽しみます。

防災・福祉活動

自主防災活動として、年2回の訓練に加え、「耐震診断ローラー作戦」

「高齢世帯家具転倒防止」などを実施しています。また、民生児童委員が中心となり、独居高齢者対策の活動を行なっています。



親睦行事など

●ソフトボール大会（6月）
昭和57年から。9組の対抗戦

●盆踊り（8月）
毎年、お盆に開催

●運動会（10月）
昭和44年から。9組対抗、各種団体の種目で実施

●敬老会（10月）
明治から。百回を超える伝統行事

●追悼会（3月）
戦没者51柱の追悼法要

●加治神明社の祭礼
元旦祭・初天神、春祭り、大祭、秋祭り、月次祭などを実施

担い手づくりと連帯意識

年間を通じて多彩な活動を展開できる秘訣は、役割分担された組織体制

◆地域コミュニティ研究会



平成21年10月、総代会の専門組織として、校区総代・元自治会長、市民館主事、学識者など13名で発足。校区コミュニティ協議会や自治会などの現状・課題の把握、改善策などを検討中。



運動会

制（前号で紹介）と地域内の各種団体による協力体制にあります。

加治地域では、昭和54年からコミュニティ協議会が設置（平成14年地縁団体化で解散）され、子ども会、老人会、遺族会、菜ばな会、風などさまざまな団体が活動しています。

特に、十数年前に田原祭りの組織を参考に発足した「加勢組」は、加治神明社大祭を地域最大のイベントに発展させました。また、青年会と婦人会が消滅した中で、厄年を中心に子どもから高齢者までの住民を結び付けるとともに、積極的に自治会行事に参加し、活気を与えています。

また、これらの団体に加え、最近では、里山保全などの地域課題に対応した会の活動も始まっています。

加治区自治会では、人々が集う施設を整えたことで、各種団体の活動も活発化し、行事や団体活動を通して、年代・性別の区別なく協力し合える連帯意識がつけられています。

他の自治会などから見て多く思える行事も、今まさに、地域社会に求められている安心安全の確保や生活環境の整備を進めるための効果的な方法として、高く評価されます。

（次回は、自治会活動の今後の展開をご紹介します。）